

# 湖北農業 「かがみ」

令和元年

冬

号

2019/No.2

Mother  
Lake

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です

発行 ■ 滋賀県湖北農業農村振興事務所農産普及課 ■ 発行責任者 寺本 薫

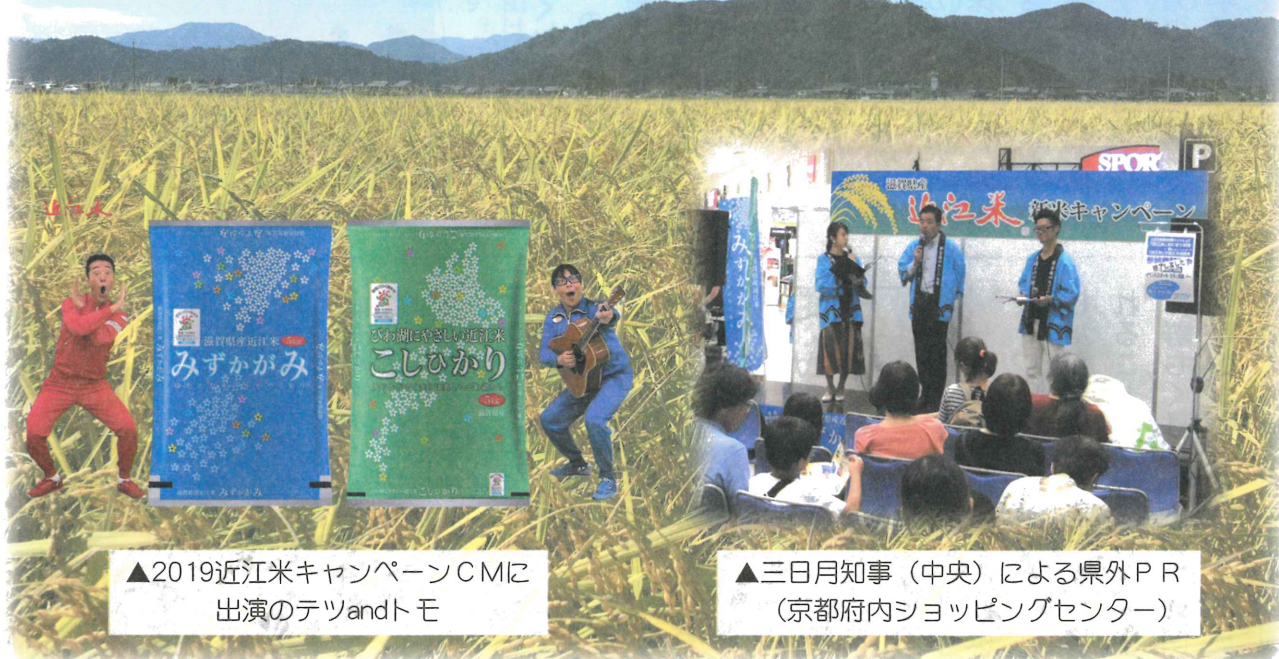
〒526-0033 滋賀県長浜市平方町1152-2

TEL : 0749-65-6629~6632 FAX : 0749-65-5867 E-mail : ga33@pref.shiga.lg.jp

フェイスブック : <https://www.facebook.com/lacnord.kohoku.nogyo/>  らくのうる湖北



## 滋賀県生まれの「みずかがみ」 みなさまに愛されて デビュー7年目を迎えました！



▲2019近江米キャンペーンCMに  
出演のテツandトモ

▲三日月知事（中央）による県外PR  
（京都府内ショッピングセンター）

### 「みずかがみ」大躍進!!

県育成品種の「みずかがみ」を近江米の主力品種として育て、県内はもとより京阪神、さらには首都圏・中京圏に販路を拡大していく方針です。公式キャラクターの「みずかがみん」やテレビコマーシャルによるPRも積極的に行い、多くの方に知られるようになりました。

消費者からは「冷めてもおいしい」「減農薬で安心」と好評で、滋賀ならではの環境こだわり農産物である「みずかがみ」は、日々の食卓を彩る重要な食材となりつつあります。

作付面積は県全体で3,000ha、湖北地域ではその1割にあたる300haに迫る勢いです。生産量は年々増加しているものの、それを上回る需要が見込まれるため、さらなる作付拡大や安定生産が求められます。令和2年産の作付面積3,300haを目標に、需要にこたえる生産量の確保を目指して取り組みを進めています。すでに栽培されている方は面積の拡大を、まだの方は小面積でも栽培を、ぜひご検討ください！



品種特性を生かす  
「みずかがみ」導入のメリット！

**特性① 暑さに強い！**

「みずかがみ」は暑さに強いため、高温の年でも白未熟粒の発生が少なく、品質が安定します。

**特性② 収穫期が早い！**

「みずかがみ」は、「コシヒカリ」と比べて収穫時期が数日〜1週間程度早いいため、収穫期の作業分散にも役立ちます。

また、大麦の「ファイバースノウ」を栽培される場合は小麦よりも播種適期が早くなります。このため、成熟期の早い「みずかがみ」は、収穫後、大麦播種までの準備期間が長くなり、余裕をもって排水対策等の播種前作業を行うことができます。



栽培マニュアルを参考に、  
品種特性を生かして、  
上手に栽培してね！



みずかがみん

「みずかがみ」公式キャラクター

**特性③ 倒伏しにくい！**

「みずかがみ」の草丈は「キヌヒカリ」並みで倒伏しにくいことから、大豆跡のほ場でも栽培しやすい品種です。湖北地域では、令和元年の作付面積のうち、約半分が大豆跡のほ場です。

大豆跡のほ場では、水稻跡のほ場より地力窒素が多くなるため、初期の茎数が確保しやすく、収量アップが期待できます。一方、施肥量が多過ぎる場合には、倒伏や食味が低下するリスクが高まります。施肥量は地力の高いほ場では水稻跡基準量の半量に、地力の低いほ場では基準量の7割にとどめましょう。

8年目…さらなる飛躍に向けて  
生産者募集中！

優れた外観品質と食味を保ち、消費者に心から喜んでいただける「みずかがみ」を提供できるよう、推進ガイドラインを定めています。栽培を行う生産者要件は、引き続き左記のとおり定められています。

～生産者の要件～

- 環境こだわり農産物の生産計画認定を受けること。
- 県が作成する栽培基準に沿った栽培を行うこと。
- 全量種子更新し、自家採種は行わないこと。
- 種子を第三者に譲渡しないこと。
- 1.85mm以上の網目で調製すること。
- 出荷にあたっては農産物検査を受検すること。

一方、種子の申込み期限はこれまで12月中旬頃までとされてきましたが、令和2年産からは延長されることとなりました。

詳しくはJA等の集荷団体・業者等へお問い合わせください。その他、栽培に関するご質問は、当課までお問い合わせください。

☆令和2年度  
農業大学校 学生募集☆

滋賀県立農業大学校では、近代的な農業経営を行うために必要となる高度な専門知識・技術および経営能力を身に付けることができます。令和2年度の学生募集は次のとおりです。

養成科

【募集定員】30名 【修業年限】2年

【専攻コース】作物、茶、野菜、花き、果樹、畜産

【応募資格】高等学校を卒業もしくは令和2年3月卒業見込みの者、または、これと同等以上の学力を有すると農業大学校長が認めた者

【願書受付期間】令和元年11月28日(木)～12月4日(水) (一般一次試験)

令和2年1月23日(木)～2月6日(木) (一般二次試験※)

※二次試験は定員に達しなかった場合のみ実施されます。

就農科

【募集定員】10名 【修業年限】1年

【専攻コース】野菜、花き、果樹

【応募資格】令和2年4月1日時点で20歳以上65歳未満の者であって、研修終了後に滋賀県内において就農することが確実な者

【願書受付期間】令和元年12月19日(木)～令和2年1月27日(月)

詳しくは、当課もしくは農業大学校までお問い合わせください。  
農業大学校：近江八幡市大中503番地 TEL：0748-46-2551  
URL <https://www.pref.shiga.lg.jp/nougincenter/daigakkou/about/>



## 中山間地域での「リンドウ」栽培のススメ

リンドウは、鮮やかな紫色のつぼみが段々に付き、盆や彼岸の花として人気があります。



市場からは仏花用の花材として、直売所ではパックス花として需要があるなど、販路が確保されています。

### ●リンドウ栽培のポイントとは？

- (1) 涼しい環境を好む植物のため、夏の夜温が下がる中山間地域が適します。
- (2) 土は、有機物に富み、粘質で保水力のある酸性土壌(pH5.0~6.0)が適します。
- (3) 宿根草であるため、1年目は4~5月中旬に苗を定植し、株を養成します。2年目から収穫し、同じ株で5年程度収穫し

8月咲の栽培ごよみ

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1年目 (品種共通)      △ ~ △ — 仕立て・防除・花摘み — ▽											
2~5年目 (早生品種)      ▽ — 仕立て・防除 — ▽											
△定植      ▼施肥      ▨出荷期											

(4) 乾燥を嫌いますので、いつでもかん水できることが必要です。

### ●中山間地域での獣害対策は？

中山間地域で栽培するためには野生獣対策が必要です。

これまでの調査では、野生獣がリンドウを好んでは食べないことは分かっていますが、ほ場への侵入による踏み荒らしの被害が懸念されます。

そこで、高さ約40cmのトリカルネットでは場を囲み、さらに地上から約40cmと1mの位置に電牧線を設置しました。昨年春に設置してから現在まで、この簡易な防護柵だけでシカやタヌキなどの侵入を防いでいます。

翌春定植する苗は年内に注文する必要があります。

ご興味を持たれた方は当課へご連絡ください。簡単な栽培向け資料もご用意しています。



防護柵を設置した様子

## 地域の新規就農者のご紹介

田中 真由美さん

(長浜市余呉町国安)

昨年の春に、祖父から農業経営を継承し就農されました。

田中さんは、幼い頃から農業に憧れを持っておられ、大学卒業後、一旦は企業に就職されましたが、祖父から農業を教わるべく地元へ戻り、就農されました。

現在は、祖父から受け継いだ水稲を中心に、マコモダケやクレソン、ニンジンといった露地野菜を栽培されています。

「湖北青年農業者クラブ(Konetai)」にも所属され、地域の青年農業者と交流する中で、仲間づくりや情報交換、栽培技術の習得に努めておられます。



宮川 忠幸さん

(長浜市下之郷町)

今春、県立農業大学の就農科を修了し就農されました。

新たに建てたパイプハウス内では上履きで作業するなど、清潔で環境にやさしい「少量土壌培地耕」でトマトを栽培されています。

8月上旬に植えられた大玉・中玉・ミニトマトは、今では真っ赤な実が鈴生りになっています。

日々の観察ときめ細かな管理を行うことで、病害虫の発生を抑えながら、低農薬栽培を実践されています。

大玉トマトは市場向けですが、完熟のものや中玉・ミニは直売所等で販売されています。





# 受賞おめでとうございます

黄綬褒章

肥田 文子さん

(長浜市湖北町伊部)



肥田さんは、昭和62年より20年間、湖北町農村婦人の家「赤谷荘」の運営管理者として町の食文化のレシピ化、再現実証に取り組み、郷土料理の特産化に尽力されてきました。また、これまで近隣小学校や商工会などで郷土料理の講習会を開催するなど、食育活動の推進にも貢献されてきました。自らが聞き取った伝統食をまとめたレシピ本「湖北町の伝統食・地産食」を出版され、今も地域の食文化を次世代へ継承する活動を精力的に行われています。

優秀農家表彰

農林水産大臣賞

山根 左近さん

(米原市柏原)



山根さんは、平成7年に県立農業大学校を卒業した後、親元就農され、平成14年には有ファームやまねを設立し、代表取締役就任されました。山東地域を中心に水稲・麦・大豆108haを経営されています。湿潤なほ場や野生獣被害の多い地域において、農地集積を考慮した経営面積の拡大と省力・効率的な生産方式の導入に努めておられます。平成30年には県の指導農業士に認定されました。

優秀農家表彰

滋賀県農業会議会長賞

松本 靖夫さん

(長浜市小谷上山田町)



松本さんは、平成15年にイチゴの少量土壌培地耕栽培を開始され、12aのイチゴ栽培を行われています。いち早く新品種や新技術(天敵や炭酸ガスによるハダニの防除、紫外線ランプでのうどんこ病防除)を導入され、化学合成農薬の削減を実現されてきました。湖北苺出荷協議会の会長として、管内のイチゴ生産者の組織化と会員の栽培技術向上に貢献されるとともに、「湖北いちご」のブランド化、消費者へのPRを行い、量販店でも販売されています。

農産品で県下初!!  
「伊吹そば」が地理的表示  
(GI)として登録!!

令和元年9月9日に伊吹そば生産組合(米原市)の在来種「伊吹そば」が地理的表示(GI)に登録されました。GIは、地域の伝統的な生産方法や気候・風土・土壌といった生産地などの特徴が、品質の特性に結びついた産品の名称を知的財産として国が登録するもので、登録された産品は、他産品と差別化が可能となり、産品の名称やブランド価値が保護されます。



現在、「伊吹そば」は約50haで栽培されています。今後、「伊吹そば」を核とした活性化が期待されます。



(写真：米原市提供)